2023-1-17

丸紅ギャラリー「美しきシモネッタ展」鑑賞所感

山本 雅晴

丸紅(株)は以前絵画の売買を行い、かなりの数の国内-外の油彩画を所蔵していた。丸紅コレクションについては会社のホームページに「染織品」、「日本の絵画」、「西洋の絵画」の各ジャンル毎にそのいきさつが説明されている。「西洋の絵画」については、1969 年に「丸紅アート・ギャラリー」を開設し、総合商社として初めて本格的に美術品の輸入販売ビジネスを開始した。同年に東京で行われた「英国フェア」の一環として「ヨーロッパ巨匠名画展」を開催するため、英国からボッティチェリや、ゲインズバラ、コローなどの絵画を大量に輸入した。その後 1974 年に「パレス・アート株式会社」を設立し、対象を印象派やエコール・ド・パリの作家に絞り作品を買い付けてきたが、第二次石油危機の余波を受けて 1979 年に絵画ビジネスを中止することになり、それ以降は取引を止めて、その当時の在庫は本社管理にした。1990 年代に手持ちの油彩画の豪華本を作成したという話題を耳にしたこともある。また、2000 年に日本橋高島屋で「丸紅美術品展」が開催され鑑賞したが、カタログ本は購入しなかった。その時に「美しきシモネッタ」を見た。また、ブラマンクの絵が 10 点近く並んでいた記憶がある。現在の丸紅ギャラリーの絵画コレクションー海外―には各画家一点ずつで 14 点リスト・アップされている。丸紅ギャラリーは竹橋の旧ビルの横に新ビルを建て、その 3 階にギャラリーが 2021 年 11 月 1 日に再開館し、第 1 回の展示会が行われていたが見過ごしていた。

今回は第 3 回目の展示会で、(2022-12-1~2023-1-31) 日本にある唯一のボッティチェリのテンペラ画「美しきシネモッタ」で 1969 年にイギリスから輸入されて以来 53 年間丸紅が所蔵してきた。この作品一点で入場料 500 円という珍しい展覧会である。多分、この作品の購入などに携わった館長の杉浦勉氏が中心になり文献調査と資料作成などを行った思入れの強い展覧会のように感じた。

モデルのシモネッタ・ヴェスプッチ（1453～1476）はジュリアーノ・デ・メディチの愛人。フィレンツェの美女として讃えられ、長らくボッティチェリの「ヴィーナスの誕生」や「プリマヴェーラ」などのモデルになったとの指摘もある。しかし、シネモッタは 1476 年 4 月 26 日に 23 歳で肺結核で死んだ。「ヴィーナスの誕生」は 9 年後の 1484 年に完成された。また、ピエロ・ディ・コジモ（1462～1521）も肖像画を描いている。それぞれの画像を下記に示した。写真 2 は 2012-10 、写真 3 は 2016-3 に現地の美術館で見た。

写真２　「シモネッタ(妖精)」
ボッティチェリ、シュテーデル美術館

写真１　「美しきシモネッタ」　丸紅

写真３　「シモネッタの肖像」
ピエロ・デ・コジモ、コンデ美術館